

# 成果報告書 概要

2015 年度助成 (助成期間：2016 年 1 月 1 日～2017 年 12 月 31 日)	
タイトル	地域の自然や人と関わる中で、主体的に学ぶ ESD の推進
所属機関	秦野市立南小学校
役職 代表者 連絡先	学校長 杉山哲也 0463 - 81 - 1630

対象	学年と単元：	課題
○ 小学生	全学年	教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発
中学生	生活科、理科、社会科、総合的な学習の時間、	子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発
教員	その他	ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成
その他		○ その他



実践の目的：	現在行われている「点」としての環境教育が「線」となり、子どもたちが主体的に環境について学び、さらには持続可能な社会を創造する主体者としての資質を培うために小学校6年間で育つ ESD の在り方について、実践を通して研究することが目的である。
実践の内容：	全校で環境というテーマを基に低学年・中学年・高学年と年齢にあったテーマで活動した。その結果、学年に上がるにつれ具体的に考えて行動できるようになった。低学年では、「生き物」をテーマとし、校庭や身近で見られる生き物に親しむことを行った。中学年では「環境保護、環境調べ」をテーマに南学区の環境をより知ることを中心に活動した。高学年は「つながり」「共生」をテーマに、低学年・中学年で活動を基に自分たちができることを考え、交通スリム化や地域の畑で農作業をしたり、地域の防災マップを作ったりするなどした。
実践の成果：	子どもたちが地域の自然にたっぷりと触れて、地域に郷土愛を持つことや地域の自然を守る人たちの願いや実践を学ぶことで、自分たちの未来を創造する資質が養われることができたと考える。また、ESD の観点から系統立てて目標を明確にし、活動を行っていくことで、低学年・中学年・高学年でつけたい力をより深めることができるようになったと考える。
成果として特に強調できる点：	低学年、中学年、高学年と ESD 観点からの目標を決め、活動してきたことにより、次のような力を養うことができたと考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で感じ、考える力</li> <li>・気持ちや考えを表現する力</li> <li>・具体的な解決方法を生み出す力</li> </ul>

# 成果報告書

2015年度助成	所属機関	秦野市立南小学校
タイトル	地域の自然や人と関わる中で、主体的に学ぶE S Dの推進	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

## 1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

本校は、丹沢山地を望む渋沢丘陵の麓に位置し、自然豊かな場所のほぼ中心にあり、市内で一番大規模な学校である。駅から近い立地条件であるが、綺麗な湧水が出ていたり、湧水でできた池で様々な野鳥や昆虫を観察することができたりと大変良い環境である。しかし、こうした環境の中にあっても、子どもたちの多くは、日常的に川で遊んでいたりと生き物と触れ合ったりする遊びを十分に経験しているわけではない。また、自然豊かであることが子どもたちの中の日常に埋もれてしまい、素晴らしい地域であることが認識されにくくなっていた。子どもの様子を見て、学校教育においても、環境教育として体系的な教育を行っていく必要があると考える。現在行われている「点」としての環境教育が「線」となり、子どもたちが主体的に地域の自然環境について学び、更に持続可能な社会を創造する主体者としての資質を育ててくためにテーマを設定した。

## 2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

### 機材・材料

- テレビ
- 巨大スクリーン
- スコップ
- 双眼鏡
- 水質検査用キット
- など

### 協力機関

- はだのエコスクール
- 秦野市役所
- 地域の方（農作業のお仕事をしている方、牛糞工場の方、）

### 3. 実践の内容

#### 各学年のテーマ

- 1年生「いきものとなかよし」
- 2年生「ときどきわくわく町探検」
- 3年生「ふるさといいところさがし」
- 4年生「くらし」
- 5年生「つながり ～地球環境に取り組もう～」
- 6年生「共生」

各学年左のようなテーマで活動を続けてきた。低学年では、地域の生き物や公共物に触れる機会をたくさん持ち、地域を好きになるきっかけを作れるようにした。中学年では、地域の湧き水の水質検査をしたり、その川で生きている生き物を調査したりするなど自然環境について探る活動を行った。高学年では、「つながり」「共生」をテーマに、今の自然を守るためにできることからゴミ拾い活動を始めたり、交通スリム化について学習したり、地域の防災マップを作ったりする活動を行った。

その中で最高学年の6年生では「共生～作ること・育てること・つながること～」という次のような活動を行った。

**「テーマと活動決めをしよう」** 「共生」という学年のテーマをもとに、クラスでどんなことができるか話し合った。その中で「何かを育てることから共にいきるということを考えていきたい」という思いから、話し合いが展開され、農作業を本格的に行い販売するところまでやっていこうということになった。教師としても、農作業が盛んな秦野市の特色を感じることや、活動を進めていく上でお世話になる人々や地域とのつながりを学んでいくことができるのではないかと期待した。

**「活動場所を決めよう」** 活動の場所を決めるために話し合いが行われ、校長の紹介で学校近くの地元の方の土地を借りて畑をすることになった。お借りした土地は長年使用していないため、植物の巨大な根が張りめぐっていた。みんなで鍬を使って開墾したがきりがないうえ、話し合った結果、地域の方の機械を借りないかという案が上がった。

**「上手に育てるには」** 地域の農家の方に畝の作り方や肥料について教えていただき、自分たちで畑を管理することになった。夏休み中にも進んで水やりや草取りを行っていた。

**「夏休みの管理のために、小屋を建てよう」** 夏休みの野菜の管理はどうするかという話題になり、「小屋を建てて、その中に管理ノートを置き、みんなで管理しよう」ということになった。その為に児童のおうちの方の大工さんに教わりながら、小屋を制作し畑に設置し、みんなで管理することができた。

**「育てた野菜で秦野市アイデア料理大会に出場しよう」** 育てた野菜を各自、持ち帰り家で食べる時にはレポートを書いて作った料理をまとめることになった。これらのレシピを秦野市アイデア料理コンテストに出して挑戦してみようということになり、8グループに分かれて料理を考えコンテストに応募した。その結果、「丹沢の雪のグラタン」を考えたチームが決勝に残り「コックボンチー又賞」を受賞した。

**「牛糞って温かい！」** 第二期には、土づくりにこだわりたいと近くの牛糞工場の見学に行くことになった。牛糞を作る過程を見たり、触ったりし、空気に糞をまぜ菌が発酵することで熱が発生し、80度ほどの熱さになることや地元のカキ屋さんからカキの殻をもらい混ぜていることなどたくさんの発見があった。

**「育てた野菜を売ろう！」** 自分たちで育てた野菜を多くの人に食べてもらいたいという願いから、地元の農産物売り場「じばさんず」で販売させてもらった。稼いだお金は、災害を受けた場所への寄付、感謝祭の費用、学校へ寄付、クラスの記念品作りなどのアイデアが出て話し合いになった。

**「お世話になった人たちへ感謝の会を開こう」** 収穫した野菜で、感謝の会を開くことになった。農家さん、大工さん、地主さん、牛糞工場の方、お店の方、調理員さんの方など多くの方にお世話になったことを改めて感じた。

## 4. 実践の成果と成果の測定方法

### ◇実践の成果

子どもたちが地域の自然にたっぷりと触れて、地域に愛着を持つことや地域の自然を守る人たちの願いや実践を学ぶことで、自分たちの未来を創造する資質が養われることができたと考える。低学年、中学年、高学年とESD観点からの目標を決め、活動してきたことにより、次のような力を養うことができ、力をより深めることができるようになったと考える。

- ① 自分で感じ、考える力
- ② 気持ちや考えを表現する力
- ③ 具体的な解決方法を生み出す力

### ◇成果の測定方法

#### 子どもたちの感想から

「共生」をテーマに活動してきた6年生の児童より、次のような感想が得られた。

「たくさんの方のおかげで普段できない活動ができた。共生とは、お互いが支え合い、励まし合い、よりよい生活を過ごせるようにすることだと思った。」

「牛糞づくりで人間の菌の力を借りていることにびっくりした。共生とはいろいろな生き物とよりよく付き合っていくことだと思った。」

「普段食べている料理ができるまでにたくさんの人々が関わっていることを実際にみる事ができた。共生。これを考えると食べ物を大事にするようになった。」

#### 子どもたちの様子から

ひとりひとりが体験を基にし「共生」について自らの考えを持つことができた。自ら学びたい、知りたいという意欲が活動を広げ、地域の方の協力もあり、多くの体験ができた。また、今回地域で農作業をお仕事にしている方や肥料を作っている方などほんものとの出会いを作り出すことにより、教師、地域の方、子どもたちの間に「学び合う関係を作る」ことができたと考える。

また、課題や活動の先を考える際、みんなで話し合いを行い、自分たちの考えを発表する機会を何度も設け、仲間で問題解決ができるようになっていった。



## 5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

低学年で地域の自然や公共物にふれあい、中学年で地域の自然環境について探り、問題を探求し、高学年で地域の自然環境の保全について考え、発信していこうという目標で2年間活動してきた。それが、根付いて高学年では自分なりの考えを持って、行動することができるようになった。これからも低学年、中学年、高学年ごとの目標を掲げていき、それに伴う活動を実現していきたい。

ESD の観点から、実践的、問題解決型、参加体験型の学び方法もこのまま意識していきたい。共に体験し、感じ、考え、話し合い、行動することといった「学び合い」を更に取り入れていこうと思う。ESD を点から線へ発展し続けるためには、今まで作り上げてきた各学年にあった体制や仕組みを維持し続けることが必要である。また、これまで築きあげてきた地域と連携した学び合いが途切れないように心がけていきたい。

## 6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載、放送された場合は、ご記載ください

- 育てた野菜で秦野市アイデア料理大会に出場
- 地域の農産物売り場での自分たちの作った野菜の販売

## 7. 所感

世界の情勢を見ると、環境破壊、地球温暖化、貧困、戦争……などこれからの未来が心配されるニュースが報道される中、ただ悲観的になったり後ろ向きになったりするのではなく、未来への扉を自分たちで押し開いていく必要があると考える。そのためには、身近にある目の前の課題にみんなで向かい合うこと、次の展開をみんなで導き出せるように訓練していくことが大切である。南小学校では、低学年、中学年、高学年と段階を踏んでいくことにより、みんなで問題解決していく力を培うことができていると感じた。これからも、些細な事、目の前にあることを仲間と一緒に取り組むことで何かに貢献できるのだという感覚を大切にしていきたい。